Vol.20
静岡文化情報
街かど

MACHI-KADO

（財）静岡市文化振興財団

大里～大浜街道 あの日あの時

文：中原在住 石上利男氏

大里～大浜街道周辺 路地裏散策

特集

しずおかおでん

Information

（財）静岡市文化振興財団インフォメーション

勤労青少年ホーム
ストリートフェスティバル・
イン・シズオカ

大里〜大浜街道 あの日あの時

文:中原在住　石上利男氏

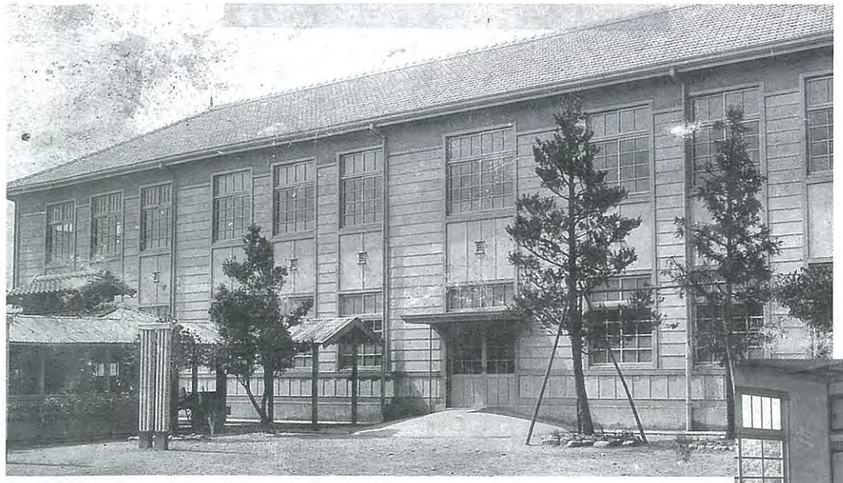
昭和23年頃 大浜街道周辺

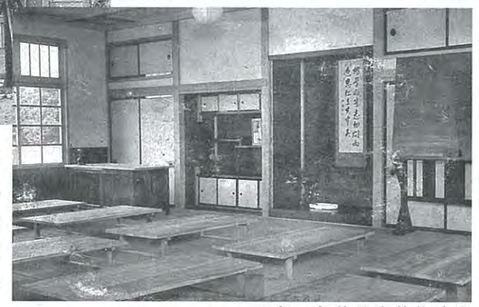
一面の田園に水路の流れる街

写真:昭和50年頃水路が流れる(上)／昭和50年頃の中原 家の前に水路がある(右)

この周辺は、昔安倍郡大里村字中原という地名であった(現在の駅南南西部)。昭和4年3月大里村は静岡市に編入された。当時の中原は学校をとりまくように40数世帯あった。9割位は米作専業農家である。非農家は4、5軒、周辺はほとんど田圃、秋になると稲穂がたわわにみのり一面黄金の波にうずめつくされていた。

写真:大里西小学校昭和17年頃の校舎(下)／初代校長 久保侗(右)





昭和17年裁縫室兼作法室

明治6年に創立された
大里西小学校の前身「豊秋黌」

現在の学校の名前は、静岡市立大里西小学校。この学校の歴史は古い。明治6年6月4日豊秋黌として創立された。初代校長は久保侗という。久保侗先生は幕府時代江戸にいた人で武芸や和漢の学問に通じており、明治初年徳川慶喜公と一緒に静岡へ来たともいわれている。この学校も昭和49年2月に創立100周年の記念行事が盛大に行われた。又、記念誌も発行された。今年で128年を迎えた静岡市内でも一番古い学校である。

市内で最も古い学校

さて、近隣といえば安倍川左岸に中野新田の集落があった。十数戸の小さな集落、東隣は見瀬、大浜街道沿いにある。少し南へ下って中村、両集落共に十数戸位、集落と集落の間は全部田圃である。当時の集落と集落をつなぐ主幹道路は9尺幅、農道はほとんど6尺幅であった。又道路は全部砂利道である。車のない時代であり、これで十分足りたのである。当時、農家では大八車が主流であった。昭和10年代になってリヤカーが出始めた。昔の子供は、現在の子供とくらべ気楽の点も多かった。宿題も少なく、塾もなく、学校から帰ると家の手伝い、又、用事のない時は遊びが主流、当時、進学する子は少なく、ほとんどが小学校を卒業して就職した。当時の子供達の遊びは、こま廻し、メンコ、凧揚げ、かくれんぼ、女の子はあやとりやお手玉等、夏は魚捕り、至る所水路のため、魚も沢山いた。又、桔梗川は湧水のため清流であり、深みのある所では飛込み、タライ流等。高学年になると安倍川での水遊びが主流となる。昔は高等科の生徒がガキ大将となり、多数の子供達をひきつれて安倍川へ行った。小さい子供達の面倒を見てくれたため、事故に遭遇した事は一度もない。当地では、昔田植えは6月20日前後、農家の子供が多かったため、田植時期になると三日間位休校になった。

昭和24年田植風景

砂利引込線(昭和26年)

安倍川の砂利をトロッコに積んで走った、通称「砂利線」。
静岡駅まで東海道本線と併走する。安倍川の上質な砂利がここから全国へ運ばれたのだ。
遠くに見える大きなビルは松坂屋。
線路左手脇の家の前には木材が干してあり、木工の町らしさがうかがえる。

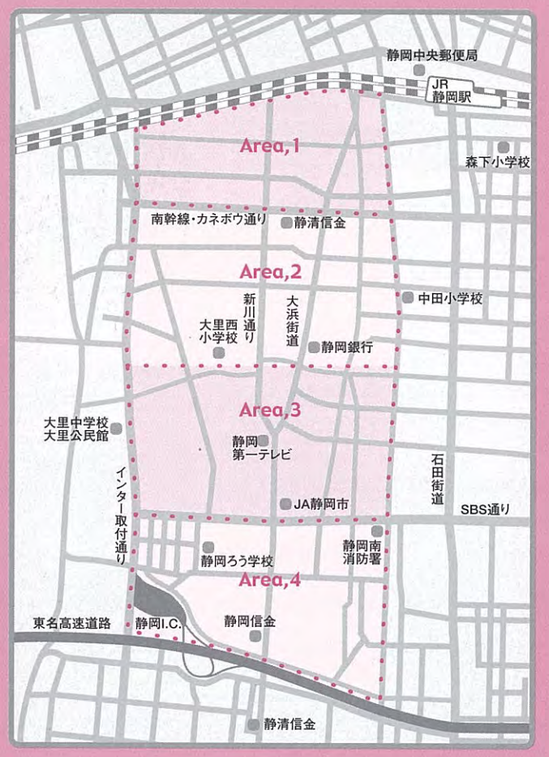
宝台橋と馬淵踏切(昭和35年頃)

昭和11年、車が多くなりそれまで歩せん橋だったものが、道幅約二間、歩道のついた石造りの橋に改修された。
昭和39年、東海道新幹線開通に伴い橋は取り壊され、高架になった。

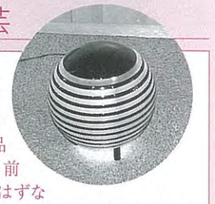
大里～大浜街道周辺 路地裏散策

MACHIKADO ROJIURA-SANSAKU OZATO-OHAMAKAIDO

散歩気分でちょっと歩けば
いろいろな国の美味しい料理店や
さまざまな芸術活動の場に
いっぱい出逢える大里～大浜街道を
4つのエリアに分けてWalking&Watching!



1 鳥羽漆芸



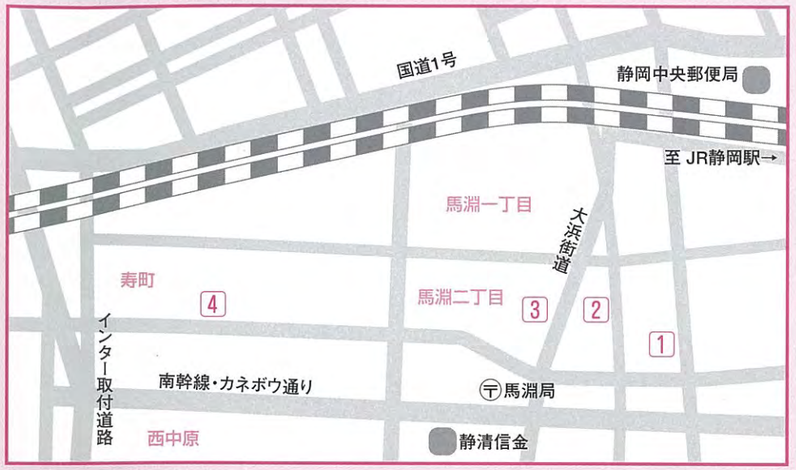
「漆器」と聞いて、まず思い浮かぶのは“お椀”。そのお椀も今や化学製品にとってかわり、以前は普段使いだったはずなのに、「扱いが大変そう」「水物は大丈夫?」と現代生活では少し遠い存在。

そんな「漆器」を身近な存在にすべく日々技術を伝承しながら、新しい塗をも創作し続けているのがここ鳥羽漆芸。

工房に併設したギャラリーに入ってまず驚いたのがワイングラス。持ち手部分に漆が施されている。漆独自の色がグラスの無機質感を和らげ、温もりを感じさせる。「ガラスに漆?」私の?に答えてくれたのは、鳥羽鐘一さん。「漆は木材、金属、焼物、布、竹、皮いずれにも塗ることができるのですよ」同じ様にお皿、ナイフ、フォークにも漆が塗られていた。そしてさらに驚いたのは花瓶。乾漆花瓶と呼ばれるこの花瓶の本体は、硬い砂と強い麻布を漆で塗り重ねてできているのだ。「このように持ち手をすべりにくくするためにザラザラ感を出したり、水に強い乾漆花瓶ができるのは金剛石目塗(こんごうせきもくぬり)だからこそなんです」鳥羽さんは語る。

金剛石目塗とは、大正13年鳥羽清一氏(鐘一さんの父)によって発案された技法で全国唯一。その特長は「砂の蒔地」と呼ばれる下地法にある。生漆と安倍川の砂を交互に素地に塗り固めていく、この技法により堅牢な下地層が作られる。下地層の上に幾重にも漆を塗り仕上げていく漆器は、表面の艶の美しさはもとより、ダイヤモンドのように固く、熱、水にも強くなる。「実用的」こそ「時代にあった漆器」への第一歩なのではないか。

それにしても何とも根気のいる作業なのかと感服せずにはいられない。



2 書家　永田文昌さん

作品「崖」

永田文昌さんは、甲骨文字の古文体、金文に注目し始めて久しい。文字の原点は、粘土や木片に文字を引掻いていた時代にある。その文字の象形性に美的表現の可能性を感じ、「象書」を追求しているのだという。永田さんは、文字を短絡的に筆に託するのではなく、文字に対する心象風景をイメージ化して創作の場に臨んでいるのだ。

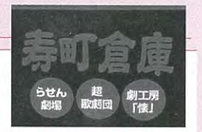
一例を挙げれば作品「崖」は、厓の真上に山があるのではなく、厓から今にも落ちそうな左上に微妙に山が書かれている。これは、細い山道を登ったときに抱いた恐怖心や不安感を作品に内包させたものである。また、さらに作品を理解してもらうため、創作にいたった視点・心情をまとめた文を綴っている。これも永田さんの独自の仕事といえよう。

さらにブロンズや陶土で文字を立体的に表現する「立像」を手掛けている。この立像は、文字の原風景としてあらゆる視点からの鑑賞に堪えることができる。

永田さんは、「書=文字構成」という観念に囚われない美的表現の視線で、自身の作品を現代に合った造形の前衛美術として確立するため日夜努力を惜しまないでいる。

ブロンズの作品「巌」

4 寿町倉庫



あまりにそのままの名前のついたこの倉庫は、静岡市の地域劇団である「らせん劇場」、「超歌劇団」、劇工房「懐」が共同運営する稽古場兼劇場だ。

今年の4月に寿町に移ってきたばかりだというが、すでに天井には、照明がつられ、稽古の声が響いている。3劇団が交代で稽古に使い、2か月に1度は公演を行う劇場と化すこの倉庫は、各劇団それぞれの発想で舞台の位置を変えたり、中二階を使ったりと思い思いの演出ができ、なかなか使い勝手がよいそうだ。

公演を直前に控えたらせん劇場の稽古におじゃました。らせん劇場の役者で、倉庫の運営会議議長を務める四季妙雅(しきみょうが)さんは、39歳で芝居を始め、今年で15年目を迎える最長老だが、この倉庫については「いいんじゃない」と満面の笑みを見せ、「ここに来る人たちが好きだ」と話す。らせん劇場代表の都築はじめさんは「芝居は、他人ものを作っていくところに発見がある。この倉庫も整備して、より多くの人たちに集まってもらいたい」と話してくれた。

さて、9月15日、らせん劇場の「おはよう、ナマハゲ。」が初日を迎えた。らせん版真夏の夜の夢ともいえる摩訶不思議なこの芝居は、寿町倉庫を異空間に変え、ラストの夕立のシーンでは、本当に雨(水)が降り注いだ。今後もこの倉庫でどんな異空間と遭遇できるのか…?

「おはよう、ナマハゲ。」のワンシーン

寿町倉庫今後の予定	超歌劇団 「古代遺跡の謎」 2002年11月30日(土)19時　12月1日(日) 15時19時 当日1200円/前売1000円/絶対安全席1500円
	劇工房「懐」 2003年2月中旬に公演を予定
	らせん劇場 2003年4月下旬、チェーホフの「三人姉妹」に挑戦予定

3 KLIMT

店のオープンから約半年。毎週水曜日、金曜日だけの週2日営業とあって、開店と同時にお客様がひっきりなし。それには理由が‥。

ここ「KLIMT」は皮靴を売っているお店。もともと靴のデザインから製造までを行っている矢沢工業のアウトレットをお手頃な価格でと事務所のカウンター前で売り出したのが始まり。アウトレットと言っても大手メーカーから依頼された製品と同デザインの色違い品や、発注数の予備分などで、無論、品質はなんら問題なし。これら製品を「KLIMT」ブランドとして直売しているので驚くような価格!

“安くて良いもの”を求めるのは女の習性?!「学校帰りの女子高生、昼休み中の制服姿のOLさん、遠くは浜松から買いに来てくださるお客様もいます」と語ってくれたのは店のオーナーである、矢沢やよいさん。現在は店に出す商品の半分はオリジナルにデザイン、製造しているそうで、色とりどりの靴が所狭しと並べられている。靴好きの私としては、ナイショにしておきたいお店なんだけど‥‥。

簓村の話　馬淵今昔

簓(ささら)とは、竹の先を割って束ねた拍子とりの楽器。江戸時代、この楽器を使い、三味線に合わせ、説教節を語って、喜捨(きしゃ)をもらう人たちが馬淵や川辺に住んでいた。村は、簓村または、説教村と呼ばれ、ささら者と呼ばれた村の住人は、村内や安倍川原、寺院の境内などで小屋掛けし、操り人形芝居などを行っていたそうだ。

彼らは、すべての興行を取り仕切り、興行収入の一部を請元から受け取る権利を持っていたというから、村全体が芸能プロダクションのようで、なかなかたくましい。

しかし、この権利は、今川時代から一貫して、この村が芝居や説教節をする一方で、駿府牢番役を勤めた代償として与えられた権利だそうだ。

5 製麺業直売店岡崎

看板には、「生ギョーザ」の文字が大きく書かれているが、岡崎は、製麺業を40年営んできた、いわば麺のパイオニア。

その製麺の技術を活かしたギョーザは、餅粉入りの皮と本格中華を学んだオーナーの作る具がセットになったもの。軽くてあっさりした味わいが好評。

6 おねえちゃん

店を切り盛りするのは、5年程前に来日したという梁明姫さん。梁さんのお勧めは、「たこ野菜炒め」。たこと野菜と細めのうどんが炒められた韓国風焼きうどんとでも言えばよかろうか。ボリューム万点で少々辛い味付けが食欲をそそる。

また、ここでは、韓国の焼酎「真露」や蜂蜜につけた朝鮮人参を牛乳で割った「生人参茶」など、韓国ならでは飲み物も飲むことができる。

日本語が、達者とはいえない梁さんだが、その温かい人柄で、この店にやってくるお客様たちはいつの間にか仲の良い仲間になっているそうだ。

7 和田警本店・大浜通り馬淵商店会

昭和28年に創業したお米屋さん和田警本店の和田晴好さんは、大浜通り馬淵商店会の事務局長を務めている。

「大浜街道の周辺は、昭和30年代、駅の方から自然発生的に発展し、当時の馬淵には、映画館もあった。和田警本店の辺りは田んぼでポツンとお屋敷があり、向かいの立正佼成会辺りには、つるやという旅館があって、巨人軍の名選手、川上哲治や大下弘が泊まったこともある。商店街の発展は、年とともに徐々に海の方へ移り、現在は西脇あたりに量販店が多く立ち並ぶようになった」というが、大浜通り馬淵商店会でも商店街の活性化と地域の人たちとの交流をめざし、様々な催しを開催している。大学教授を招いての講演会をはじめ、夏には、立正佼成会駐車場で夏祭りを開催、ビアガーデン夜店市や歌謡ショーなどで1000名にも及ぶ人を集め、福引の景品に授産施設の商品を採用し、「障害を持つ人たちの自立を支援しよう」とメッセージを添えた。夏祭りの写真を見ると、どの人の顔もイキイキとし、商店街が共通の夢と希望を持っているように見える。

8 ステンドグラス教室「工房ル・セルフィーユ」

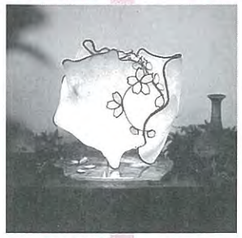
「ステンドグラス」という言葉が持つイメージを心地良く裏切る真っ白なランプ。

白鳥貴美恵さんがとりわけこだわるのは「白」だ。

ワンポイントに色を入れたくなる誘惑をはねのけ、「白」にとどまることへの挑戦。

できあがって型からはずす、あるいは作品を立てるその瞬間、ふっと光が透って「生まれた!」と感じる。それまでの大変さは消えて、また次を想うのだという。

ステンドグラスの制作を始めたきっかけは、とあるテレビ番組。何か新しいことを始めたいと思っていたころ、何気なくつけていたテレビでステンドグラスに出会い、たちまち光とガラスの魅力に惹きつけられてしまった。

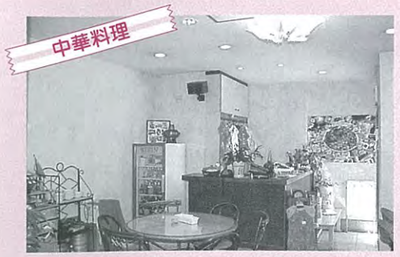


以来2人の先生に師事し、平成元年に工房「ル・セルフィーユ」を設立、ステンドグラス教室の講師を務めつつ、個展開催やコンクールへ出品と活動を展開している。平成10年には全国公募ステンドグラス美術展プロ部門にて優秀賞を受賞、平成12年には米国ステンドグラス専門誌に作品が掲載された。

教室は毎週あるいは隔週、工房の他、SBS学苑パルシェ、松坂屋で開催。また伝馬町でも新しく教室を開き、娘さんが講師を務めている。

内容は、アクセサリーや時計などの小物から窓パネル等大型の作品まで、伝統的手法はもちろん、個性をいかした物づくりを学ぶことができる。

中央写真:米国誌に掲載された作品「花の宴」第1楽章



9 中国飲茶館・Bar España

各国料理店が多いこの地域。

ここは、カントリー風の建物の中に中華料理店とスペイン料理店が並んでいる。どちらも中国・スペインの味にこだわる個性派だ。

中国飲茶館を経営している朝岡俊司さんは、大の中国通。1年に4、5回は中国へ行っているが、行く度に発見があるとその良さを語る。そして、日本の中華料理は日本人に合わせたもの、もっと本格的な中華料理を出したいと7年前にオープンしたのが、このお店だ。

そういえば、ここで出される麺は、うどんと素麺の中間位の白いものだった。中国にはラーメンというメニューも黄色い麺もないのだそうだ。

店内には中国で買い付けた服やお茶などが置いてあり、朝岡さんが撮影してきた中国の様々な料理がポスターとなって飾られ、そのこだわりが感じられる。

店にはフラメンコの写真がいっぱい

バルはスペインで居酒屋のことだから文字通りスペイン居酒屋という意味の「Bar España」。

料理を作る店のママは、ご主人がスペイン人。料理は、スペインでバルを開いていたご主人のお母さんから教わったもの。

スペインの家庭料理をとても大切にしていて、トルティジャと呼ばれるオムレツや魚介料理のほか、スペインの家庭では週1度はその食卓にのるというローストチキンなどが主なメニューだ。

また、タパスという一人でも気軽に食べられる小皿料理や、自家製サングリアも好評だ。

お店には、フラメンコのギタリストや踊り手が集まり、その場の盛り上がりで踊っているそうだ。

10 田川木工所

藍色の地に趣味の「趣味の和家具 たがわ」と白く染め抜いたのれんがかかっている。中に入るとプンと木のにおいがし、がっしりとした民芸調の家具が並んでいる。

これらを家具指物というが、指物とは、指先で作ったものをいう。その作業は精密を極め、作る家具に合わせてカンナも自分で作り出す。家具の角を削るためのカンナや面取りのためのカンナなど5センチ程の様々なカンナがあり、それによって隙のない家具が作られる。引出しを閉めるととなりの引出しが飛び出す、いい仕事であることこの上ない。

製作者の田川克己さんは「お客様の要望を聞いて家具を作っていきたい」と店先に並んだ家具は、民芸調ではあるが、A4版の入る五ツ引きやレンズをはめ込んだ老眼用の机など日常生活に便利な工夫がされている。「作った人の顔もわからず高額な家具を買ってもらうことには疑問を感じる」という田川さんは、「人間性も買ってもらいたい」と商売にも誠心誠意、県外へも作った家具の修理にでかけるという。

11 増田焼豚本舗

増田焼豚本舗は、昭和29年鶏肉屋として創業した。当時、この辺りは、ほとんどが田んぼで、家もポツンポツンとしかなかったというから、初代はかなりのチャレンジャーだったといえよう。

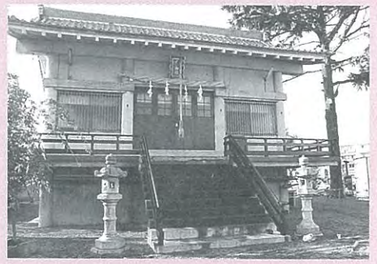
ロース・モモ・バラ・・・、好みのパーツが選べる。

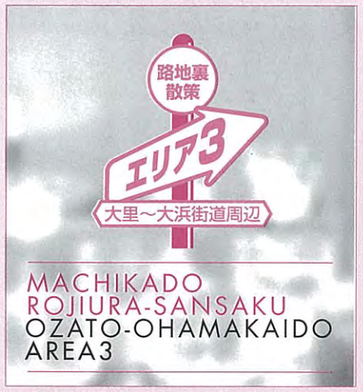
店は、2代目から精肉と焼豚を扱い、現在は、3代目が焼豚と惣菜を専門に今年の3月リニューアルオープンさせた。

皆が「おいしい」と口を揃える焼豚は、肉は静岡産、タレに使う醤油は静岡醤油と、地元の素材にこだわったもの。こんがり焼かれ、タレがひかり、ガラスケースにつるされた姿には、思わず食欲をそそられる。

12 水神社

中野新田は開墾当初から安倍川の水害に悩まされたため、水神社を建て、郷土の守り神とした。





13 緑生い茂る路・彫刻の並ぶ庭

第一テレビよりやや北側、大浜街道と新川通りを結んで、緑生い茂る路が続いている。商店を中心とした周辺の町並みとは、突然風景を異にしたこの路に入っていくと夏場はスッと気温が下がり、ホッと安堵感を覚えてしまう。

この路のちょうど真中あたりに彫刻の並ぶ庭が見える。失礼ながら奥までのぞかせていただくと、裸婦像が十数体はあるだろうか。最初はその数に、しばらくしてその裸婦像の持つ豊かな女性美に驚かされ、白昼夢をみているような気分になる。

なぜ、こんな立派な彫刻がここに並んでいるのだろう。3回程この路を通り、やっとお宅に声をかけることができた。この彫刻の庭は、もと創芸会（彫刻団体）同人、県美術家連盟理事（現在は、市美術家連盟理事）の岡村丈助さんのお宅だったのだ。

岡村さんは80歳を機に彫刻の制作をやめ、惜しげもなく作品たちを庭に並ばせているのだが、時に裸婦像に目をうばわれて庭に入り込んでくる人や創り方を知りたいという人のために石膏をかける前の粘土の型を家の中に置いて創り方の説明をしてくれる。

裸婦像たちは、緑の中で息をつき、あたかも意思を持って、岡村さんの住まいを見守っているかのように見える。「緑の中で彫刻も気持ちよさそうですね」と話しかけると、岡村さんは「夜は不気味だよ」とニヤリと笑った。

岡村丈助さんの作品は新川通り東海パックシステム前にも置かれている。

14 Chuck Wagon

「Chuck Wagon（チャック ワゴン）」とは、アメリカの開拓時代に荒野を旅した幌馬車隊の食堂車のこと。アメリカ家庭料理というと耳なれないが、かつてアメリカに移住してきたフランス系・スペイン系貴族と強制労働で連れてこられたアフリカ人、そして、ネイティブアメリカンの食文化が混合し、受け継がれてきたもの。

店長の榊原正章さんは、義理の弟さんの実家があるニューオリンズで、彼のお母さんが作ってくれた家庭料理のおいしさに魅せられ、アメリカ家庭料理の店を始めたという。

添加物を一切使わない食材をその味がでるまで、ゆっくり、じっくり煮込んだ料理は、まろやかで、体にも心にもやさしい。売り切れごめんのデザートはその年に採れた質のよい食材を使った限定品だ。

15 静岡ミュージカルカンパニー・シャイン

平成9年9月、焼津市出身の八木朝輝（あきら）さんが中心となって結成。ミュージカルに興味を持つ人たちが「演技」「歌」「ダンス」を基礎から学んでいる。メンバーは現在、小3の男の子から大人までの37人。静岡市だけでなく富士や島田から通う人も多い。過去には、浜松に住んでいたメンバーがシャインの練習に参加しやすいよう、会社を辞めて静岡へ転居したこともあったそうだ。練習は主に土曜日、静岡南幼稚園で行っている。内容は歌、ダンスを1時間半ずつ、それぞれ専門家が本格的に指導する。メンバーの中には映画やドラマに出演したり、プロの劇団へ入ったりと活躍の場を広げる人も少なくない。

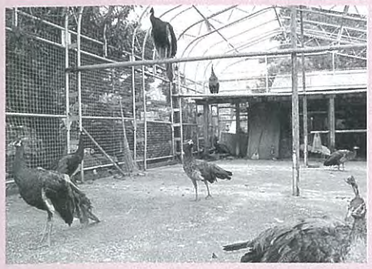
平成14年公演「アプローズ～ブロードウェイ・キッズの夢物語～」

公演はおよそ1年半に1回のペースで行っている。音楽はブロードウェイミュージカルからピックアップすることが多いので、耳慣れた曲がほとんどだとか。それぞれのメンバーに必ず1回はセリフやソロがあるよう配慮されている。

公演1週間前の通し稽古に気合いが入る

取材当日は公演間近とあって、レッスンの合間に自主的にダンスを練習する姿が目立った。何のレッスンが好きかと尋ねると「ダンス！」という答えが最も多い。口では「緊張している」と言いながら表情は明るく元気いっぱいだ。あまりに楽しそうなので自分も仲間入りしたくなってしまった。見ると公演のチラシの裏に「メンバー募集」の文字。ただし、オーディションがあるそうだ。

16 クジャクのいる家



脇谷克己さん宅には、現在、真クジャク・インドクジャク・白クジャクが合わせて43羽おり、繁殖期の夏には雄が羽を広げたゴージャスな姿を披露している。また、脇谷さんが理事長を務める静岡南幼稚園では、卒園式にクジャクの羽を子供たちに贈っているそうだ。

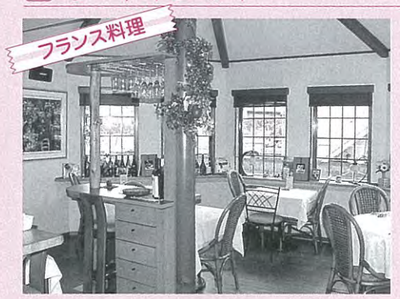
17 玉泉寺

大里西小学校の前身、豊秋黌（ほうしゅうこう）ができるまで寺小屋があった。

18 中原桔梗公園

7月20日には地元の夏まつりが行われ、今年は初めてみこしが出た。

19 ラ・ギャレット



お昼は、手頃なランチ、夜は予算に合わせたコースとアラカルト料理がメイン。

フランス料理店だが、無理やり洋風にするのではなく、地の食材、旬の食材を大切にした料理を提供している。

お客様も20代から70代と幅広く、男性も多い。落ち着いた店内では、ランチ時でもお客様がゆっくり話しをしながら食事を楽しむ姿が印象的だ。

20 大里公民館

講座「お母さんのための台所で学ぶ科学遊び」

大里公民館は、平成7年4月に市内8番目の公民館として開館。東名高速道路の静岡インター近くにある大里中学校の敷地の一部に建てられ、中学校と専用通路で結ばれている全国的にも珍しい公民館だ。

大里中学校だけでなく、大里保健福祉センターや市民サービスコーナーとの複合施設となっており、地域の拠点として多くの方々に親しまれている。

大里公民館では、「おおさと自遊塾」や「大里女性学級」など、受講者自らが講座の企画・運営に係わっていくような事業を展開しており、生涯学習を意識した「市民参加」の公民館事業を目指している。また、中学校と隣接しており、若い世代の転入者も多いことから、教育面を重視した講座にも力を入れている。

今年度からは、第1・3月曜日と祝日も開館となり、利用者の幅も広がってきている。

21 エビスサンプル

クッキーのサンプルおいしそう…。

工場の多い土地柄、こんなところも…。
ここでは、食品サンプルを作っている。
どれも本物そっくりでおいしそう。
静岡のみならず、台湾、中国にも出荷している。

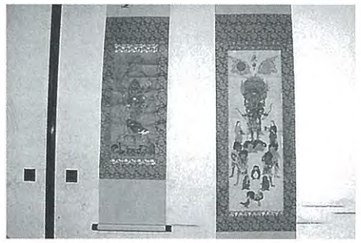
庚申講（こうしんこう）

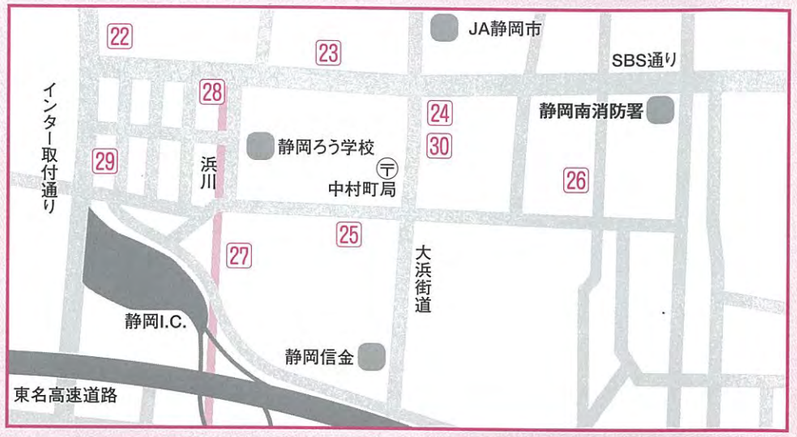
大里今昔

古い暦にある十干十二支によれば、庚申の日が60日ごとにまわってくる。

道教では、庚申の夜には人体にいる三尺虫という虫が睡眠中に天に昇り、天帝にその人の罪過を報告するといわれている。そのため、庚申の夜には、庚申様を祭り、眠らずに語り合ったそうで、その時の寄り合いを庚申講といったそうだ。

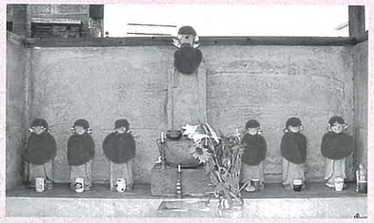
現在、中野新田では10軒がこの庚申講を引き継いでおり、庚申の夜には掛け軸一対を飾り、祭壇に供物をしてお神酒を交し、語り合いをつづけているそうだ。





22 六地蔵

六地蔵は地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天道の六道で、苦しみ悩む人々を救うという。中野新田の六地蔵は「子安地蔵」「子育て地蔵」と呼び親しまれてきた。縁日の7月24日には、団子や香花を供え、地域のお婆さんたちが念仏を唱え供養する。



23 トラットリア イルフォルノ

本格的イタリア料理を提供。バイキングもうれしいサービスだ。

24 STUDIO PLANET

大浜街道とSBS通りが交わる交差点、夜になると、ボウッと青く光る看板が一枚。「STUDIO PLANET」の名前の下には、ポール・マッカートニーの「バンド オン ザ ラン」の歌詞が書かれている。

ここは、主にバンドを組む人たちが練習に使う貸スタジオ。9時から24時の間に予約すれば、年中無休で深夜から早朝、つまり24時間いつでも使用することができ、また、音響・照明・楽器レンタルの仕事も請け負っている。

「おしゃべりなおじさんたち」岩城さん(左)杉山さん(右)

代表の杉山茂樹さんは、市内でも有名なライブハウス「サナッシュ」も経営、PAの仕事もこなし、かつては、バンドもやっていたというから、音楽に関することにはすべて精通しているといえる。

杉山さんに音楽やバンドの魅力を尋ねると、言葉を真剣に選んでいる。そばにいた照明担当の岩城さんが「音楽が生活を後押ししてくれた時代があったよね」と言葉をかけると、それを機に「富士山で聞いた風の音が無音であるのに美しかった」という話などをしてくれた。そして、音楽の話から映画・テレビドラマの話しへと発展していく。いつのまにか常連のバンドが練習を始め、スタジオから時折ガツンガツンと力強い音がもれてくる。お二人は「おしゃべりなおじさんたちのいるスタジオ」とオチをつけながら、「バンドが増えるようイベントを企画したいのだ」と教えてくれた。「おしゃべりなおじさんたち」の元気のいいイベントが何だかとても楽しみだ。

11月7日のライブにむけて練習する「The Shot Gun Babys」

25 谷口工芸

「手作り、あなたのオリジナル家具」と看板に記された谷口工芸では、家具のデザインをお客様とそこに働く人たちが一緒に考え、お客様が頭の中で想像している家具を作り上げている。

例えば、足元灯のついたダイニングテーブル、椅子に引き出しをつけ、使わない時は整理棚となっているドレッサー、飾り棚にもなる衝立など、アイデアがいっぱい。

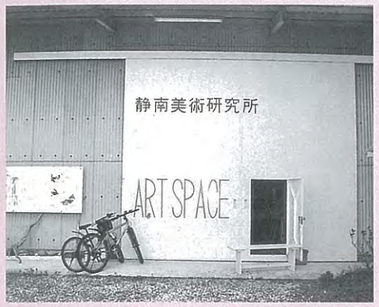
また、「家具は一生物。量産ではなく、インテリアの一つとして家具を作っている」と見ばえも重視。がっちりとした仕上がりに流行のアジアンテイストがいきている。

時折、お店の前に商品を展示している

26 静南ギャラリー・静南美術研究所

外壁に大きく赤で「ART SPACE」の文字。中へ入ると、天井が高く自然の光が差し込んで開放感がある。家具屋の倉庫を改装した建物だそうだ。

主宰の河村厳生さんは、美大卒業後、東京で音楽関係の仕事に携わっていた。レコードやテレビ番組、映画の制作等、広い分野で活躍していたそうだ。音楽関係?と思うかもしれないが、美術も音楽も根っこの部分では一緒とのこと。河村さんにとって、美術とは「つくること」と「発表すること」。



ずっとそれらに関わっていきたい、という希望があったという。その夢をかなえるべくこの地にアトリエとギャラリーからなるアートスペースを設立。「教える」「制作」「発表」という流れを実現しようとした。

「教える」「制作」部門、アトリエには制作中の作品が並んでいる。生徒は高1から最年長は69歳まで16人。ちょうど大人の受講生が1人絵を制作していた。これまでほとんど独学だったというが、かなりの腕前だ。「研究所では、色や画材の扱い等の基礎から教科書にはない『かくし技』まで教えてくれる」と楽しそうに語っていた。

「発表する」部門のギャラリーでは、企画展を開催したり、スペースを貸し出したりと、美術作品を外へ発信する場となっている。

天井の高いギャラリー、オブジェもおけそう

アトリエで学んだ生徒がギャラリーで個展を開き、その後アトリエに戻って指導する側に立つ。こんな流れを河村さんは目指している。

27 水墨画家　中野素芳さん

「ただのおばさんで終わりたくない。素適に生きたい」という思いから看護婦時代にいろいろな習い事をして水墨画に出会った。

水墨画は墨一色のモノトーンの世界であるが、筆の使い方、描く速さ、水の量の違いなどでさまざまなニュアンスが描き表され、あらゆる色彩を表現するので、見る側の気持ちによって作品が明るくも暗くもなるそうだ。

静岡アートギャラリーでの展覧会

現在は、生活の中に溶け込む水墨画を目指し日傘、着物、ネクタイ等いろいろなジャンルに取組む一方、水墨画を多くの人に親しんでいただくために8か所で教室を開き、100名以上の生徒に水墨画を教えている。また、子供たちに日本文化である水墨画を伝えていきたいという思いから「ゆとり教室水墨画委員会」を設立し、描くことによって得られる様々な喜びを感じてほしいと考えている。

素芳さんは、瞬時に作品を書き上げるが、看護婦時代に積み上げてきた集中力が生かされているのだという。今までに数多くの作品を手掛けた中で東京の西光寺や掛川の法泉寺の襖絵は、節目のものといえる作品であるが、「歴史に残る絵を描きたい。水墨画を描き続けるうえで満ち足りたと言う感覚はまだない」という素芳さんは更なる飛躍を求めていた。

28 川の話

大里今昔

静岡平野を作った安倍川の語源は「荒れ川」だという。今川時代、築城計画のため西に追いやられ、現在の位置へ移ったが、もとは見瀬、中原、西脇、西島といったあたりを流れており、勢いに任せて移り変わる川筋に挟まれた土地であったことから、それらの地名が付いた。勾配のきつい土地を下る急流は、度重なる氾濫により幾筋もの支流を生んだ。

また、西脇や浜川には湧き水が出ている。地下水は砂利層を流れているが、大浜の手前に粘土層が横たわるため、ここで地上に現れるのだ。西脇の酒屋「ハギニシキ」では、水位こそ低くなったものの、南アルプスからの清水が今日も元気よく湧き出している。浜川の湧き水は数も多く、川中の各所で水面を震わせている。

浜川といえば、地元では「桔梗川」と呼ばれているが、その名の由来は徳川家康が駿府にいた頃、1,000人にも上る大規模なキリシタンの処刑があり、流された血が川を桔梗色に染めたからだとか。

先日、浜川で遊ぶ子どもたちに出会った。何が捕れるのかと訊くと、バケツに入ったたくさんのモエビを見せてくれた。

夏には鮎が川を上ってくるので、釣りを楽しむこともできる。

子どもたちの捕ったモエビ

29 高須三左衛門

中野新田のロイヤルホスト駐車場内には、八代将軍吉宗の頃、私財を投じて新田の開発事業を成し遂げた人物、高須三左衛門の墓碑がある。

ここは通称「芝切りさん」と呼ばれ、1年中くすのきが青々と繁っている。

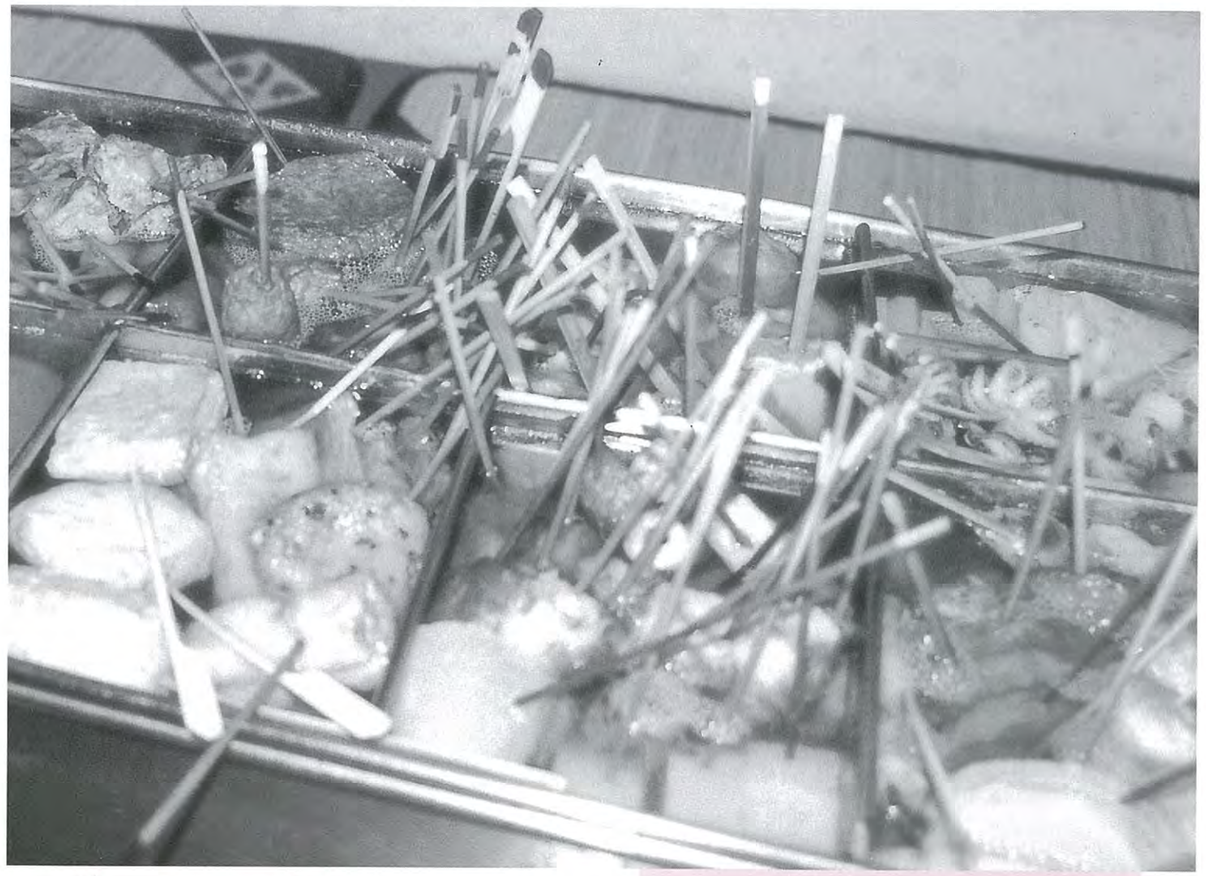
志太郡高須村の武士の子として生まれた三左衛門は、当時の不況克服のため新田開発を志した。

安倍川の川原で田畑になりやすい場所を耕し、何十年も水害と闘い、作物を栽培したという。

彼の位牌は子孫の高須家によって祀られている。

30 サイゴン

県内唯一のベトナム料理店
野菜を多く使ったヘルシーな料理がいっぱい。



しずおかおでん

SHIZUOKA OPEN

秋深し おでんの湯気が 恋しけり

大浜街道を歩いているとおでん屋が妙に多いのに気づく、地元の人に聞いてみると、かつてこの辺りは、駄菓子屋が多く、駄菓子屋には必ずおでんがあったからだという。

さて、この「おでんが駄菓子屋にある」ということこそ、静岡おでんの大きな特徴なのだが、昨今の駄菓子屋はコンビニエンスストアに取って代わられ、子供たちはおでんといえば、コンビニおでんを思い浮かべ、あの真っ黒スープで煮られた静岡おでんは何か変と感じている節がある。

そんな食文化事情を憂いたか、静岡のおでん文化を守り、全国にPRすべく「静岡おでんの会」が発足した。アイセル21で開かれた講座「おでん考」から出発したこの会は、現在会員が約50名。皆、おでんの魅力にとりつかれ、この秋には、「静岡おでんマップ」を作り、その完成記念イベントを立ち上げる予定だという。

おでんは日本初のファーストフード、おでん屋は、オープンキッチンですよ

「静岡おでんの会」の会長 大石正則さん

「静岡おでんの会」の会長、大石正則さんによれば、静岡おでんの特徴は、「真っ黒スープ」「串にささっている」「黒はんぺんがある」「青海苔・だし粉をかける」そして、「駄菓子屋で売っている」の5つだそうだ。これを聞いて、「何だ、普通のおでんじゃん」と思われた方も多いだろうが、この特徴は静岡という土地に根ざしたもので、他県の人は皆驚くものなのである。まず「黒はんぺん」と「青海苔・だし粉」は、他県では、ほとんどおでんに使うことはない。しかし、静岡には、西は焼津、東は由比と漁港があり、魚の加工所も多かったので、かつお節のクズである「だし粉」をたくさん手に入れることができ、イワシ、サバなどの青魚から作られるつみれは、白はんぺんより安い「黒はんぺん」となっていった。

また、「青海苔」は、三保ですいぶん採れたという。

「真っ黒スープ」にも同じような理由が上げられる。肉を使っただしは、手間がかからなくて楽、しかも牛すじや切り出しは格安であり、焼津などで豊富に作られる練り物もおでんの中でいいだしを出したのだろう。

こうした、身近に安く手に入る素材を使い、串にさして、近所の駄菓子屋で接待なしのセルフサービスで気軽に食べるのが、静岡おでんのスタイルとなったのだが、大石さんは、ここにひとつの推理を加え、「静岡は、お茶の産地ですが、消費の方も日本一です。お茶を飲んだら何かつまみたくなる、そこで、おでんがお茶の時間の中食(なかじき)として広まったのではないでしょうか。おでんは日本初のファーストフード、おでん屋は、オープンキッチンですよ。」と語る。

静岡では、大正時代からおでんが売られ、戦後は青葉通りにおでん屋台が200軒も立ち並んだ。それらの屋台を連合艦隊と呼んだ人もいるから、その風景はまこと壮観で、街の風物詩でもあったろう。昭和43年、屋台すべてが撤去された後は、青葉公園周辺におでん横丁ができ、また、郊外へ移っていった人たちもいたという。

肌寒さを感じるとおでんが恋しくなる。しかし、静岡では、夏でも草薙球場前や大浜プール横にもおでん街ができる。静岡人にとっておでんは、身近な素材を使い、気軽にいつでも食べる、生活の中に溶け込んだ静岡ならではの文化なのだ。

大浜街道変わり種おでん
創作おでん　五鉄

大浜街道、馬淵四丁目にある「五鉄」は、「静岡おでんの会」のメンバーでもある時山昌久さんが経営している。ここには、静岡おでんはもちろん、関東・関西おでんも楽しめ、その上、時山さんの創作おでんが130種類ある。創作おでんは、すり身の中に牡蠣や小豆やチーズなどが入ったもので、すり身も抹茶風味など変わったものがある。また、メニューを見てびっくり。トマト、なす、バナナなどがおでんの具として並んでいる。「よそには無い物を出したい」という時山さんだが、これは、なかなかのチャレンジだ。

さて、お味の方は…、トマトは、関西おでんの汁の中で煮られたものを小鉢にとり、汁をかけ、皮をむき、つぶして食べる。バジルなどのスパイスを入れるので、イタリアンな感じでなかなかおいしい。

なすには山芋がかけられて、あっさりとしたなすの味がいかされている。問題はバナナだが、注文すると、目の前でバナナの皮がむかれ、おもむろに関西風の汁の中につけられる。待つこと10分、汁から出されたバナナは、熱が加えられ、甘さが増し、お菓子感覚で食べられる。関西風の薄味も隠し味となっているようだ。確かによそには無いおでんだが、どの味にも計算があって、納得させられる。他にもりんご、ほうれん草、湯葉などがあるので、試してみてはいかがか?

もちろん、スタンダードな静岡おでんも種類が豊富でおいしいお店だ。

静岡おでんマップ完成記念イベント

「静岡おでんの会」の「静岡おでんマップ」の完成を記念してイベントが開催される。

と　き:平成14年11月23日(祝)10時～
ところ:アイセル21 1階ホール

イベント内容

●講演会
「静岡おでんへの独り言」
大長克哉氏(静岡朝日テレビ)
「おでんと風水」
高木桂蔵(静岡県立大学教授)
その他楽しいトークがいっぱい。

●おでんマップお披露目
参加者にはマップが無料で配られます。尚、このマップは静岡の中心地を特集したものです。

●お昼には、市内各店のおでんを試食
※参加には事前に往復ハガキでの申込が必要です。
往復ハガキに住所・氏名・電話番号を明記し、下記へ郵送して下さい。
11月11日(月)必着(多数抽選)
〒420-0865 静岡市東草深3-18
アイセル21「静岡おでん」係
Tel.054-246-6191

Information
(財)静岡市文化振興財団 インフォメーション

Good communication
発見!すてきな街。

勤労青少年ホーム

勤労青少年ホームでは昭和46年6月に開館して以来、31年間、市内在住もしくは勤務している30歳未満の勤労青少年を対象に、勤労青少年の教養を高め、又余暇の有効利用を図るため、各種教養教室の開催、憩いの場と仲間作りのための各種スポーツレクリエーション活動の実施、サークル活動等自主活動の援助を通じ福祉の増進と健全育成に努めてまいりました。大岩町の事務所(市立看護専門学校寄宿舎友樹寮あと)で今の若い人達のニーズに沿った、趣味的な講座から教養講座を中心に活動しています。仕事帰りのひと時を有意義に過ごしたいと思っている方、利用者同士の交流をはかりたい方は一度覗いてみてはいかがでしょうか。

●利用対象者　市内在住、又は市内に勤務している30歳未満の勤労青少年で当ホームの平成14年度の利用証をお持ちの方。(利用証は免許証・健康保険証等の身分証明書があれば、事務所で交付(無料)します。)

お問い合わせ
〒420-0885静岡市大岩町3番25号
Tel,054-247-4665　Fax,054-200-5885
E-mail:kinsei@chabashira.co.jp
開館時間　平日9:00～21:00 土曜13:00～21:00
休館日　日曜・祝日・年末年始

STREET FESTIVAL IN SHIZUOKA

クリーンでクリエイティブなストリート

"C×CStreet"をコンセプトにしたストリートフェスティバル・イン・シズオカは今年で3回目を迎えます。

「舞台の上や美術館の中からの芸術」ではなく、見る者と見られる者の融合が存在する活力あるイベントです。
たくさんのミュージシャンやアーティストが集まり、ジャンルにこだわらず、手作りの良さを残すいろいろな物や事に出会える場です。

今年のテーマは…
「C(si:)」で遊ぼう！！

11月16日(土)13:00～19:00
17日(日)11:00～18:00
雨天決行
青葉シンボルロード
B1～B4ブロック

お問い合わせ
ストリートフェスティバル・イン・シズオカ実行委員会
〒420-0031
静岡市呉服町二丁目1-1札の辻ビル6階
(財)静岡市文化振興財団内
Tel,054-255-4746　Fax,054-653-3501
http://www.streetfestival-shizuoka.com

From Editor 編集後記

◆水に恵まれた大里～大浜街道。昔は田んぼの広がる豊かな土地だったんだなあ。今は面白い活動をする人がいっぱい。美味しいものもいっぱい。違った意味で豊かなのかも。

◆皆様がお持ちの情報をもとに取材をしたいと思います。ご意見・ご感想・情報をドシドシお寄せください。

参考文献
●『町名の由来』 飯塚伝太郎著
長倉智恵雄補筆　静岡新聞社
●『おおざと -百年史-』
静岡市立大里西小学校発行
●『ふるさと静岡ミニガイド』
加藤忠雄著作集(Ⅱ)
●『大里の歴史』
おおさと自遊塾講議資料 興津吉雄著

写真提供
海野幸正氏(静岡県写真協会長)
石上利男氏
大塚博氏
静岡ミュージカルカンパニー・シャイン

Special Thanks
静岡市立大里公民館

静岡文化情報「街かど」第20号
●発行(年2回)
平成14年10月
●編集・発行
(財)静岡市文化振興財団
〒420-0031
静岡市呉服町二丁目1-1札の辻ビル6階
TEL.054-255-4746/FAX.054-653-3501
E-mail:bunshin@chabashira.co.jp
http://www.chabashira.co.jp/~bunshin/

●印刷
株式会社パピア中央
静岡市小鹿一丁目62番18号

音楽舎 ミュージッククラス 生徒募集

Music Class

おとなのピアノ
楽譜が読めなくても弾けるようになる
自分の弾きたい曲がマスターできる。
◆お母さんのためのピアノレッスン
◆働く人のためのピアノレッスン
(OL、サラリーマン、お父さんのために)
◆余暇を楽しむためのピアノレッスン
(おじいちゃん、おばあちゃんのために)
●月2回/1レッスン30分
/個人レッスン

ヴァイオリン教室
幼児(4歳以上)から大人までどなたでも入会できます。初めての方でも大丈夫。お気軽にどうぞ。
●毎週1回/年間44回
/1レッスン30分/個人レッスン

管楽器
(クラリネット・フルート・サクソフォン)
趣味の管楽器や、部活動の予習・復習に、あなたのお好きな曲をマスターしましょう。
●毎週1回/年間44回
/1レッスン30分/個人レッスン

ちびっこおんがくひろば
のびのびきっず
手遊び、歌遊び、リズム遊びなどを通して、お友達といっしょに遊びながら音を聴く耳を育て、集中力やリズム感を養います。たくさんの音楽をからだ全体で経験することのできる1年間のコースです。
●毎週1回・午前
/年間40回(5月より3月まで)
/1レッスン45分
対象年齢/2歳・3歳児(未就園児)
/グループレッスン(3～6名)

わくわくきっず
鍵盤楽器を中心に、歌を歌ったり、いろいろな楽器を鳴らしたり、幅広い音楽活動で豊かな音楽性を身につけます。また、合唱やアンサンブルなど、グループコースでしか味わえない貴重な体験のできる2年間のコースです。
●毎週1回・午後
/年間40回(5月より3月まで)
/1レッスン45分
対象年齢/年少以上
/グループレッスン(3～5名)

文化箏教室
日本の伝統のすばらしい音色を手軽に簡単に楽しめる!
文化箏とは、従来のお箏を半分の長さにして、取り扱いやすく箏の面倒、難しさをなくしたお箏のことです。教本、曲集は大正琴のように分かりやすい数字譜ですので、始めたその日から楽しみながら曲が覚えられます。
●月2回/1レッスン2時間
/グループレッスン(10名程度)

リトルピアニストコース
楽しい教材を取り入れながら、ひとりひとりに合ったレッスンをします。楽譜が読めなくても大丈夫!!大好きな曲が楽しいレッスンですぐ弾けるようになります。
●毎週1回/年間44回
/1レッスン30分/個人レッスン

静岡市昭府一丁目8-35
ツキヂビル5階
(静鉄バス安倍線、昭府町バス停前)

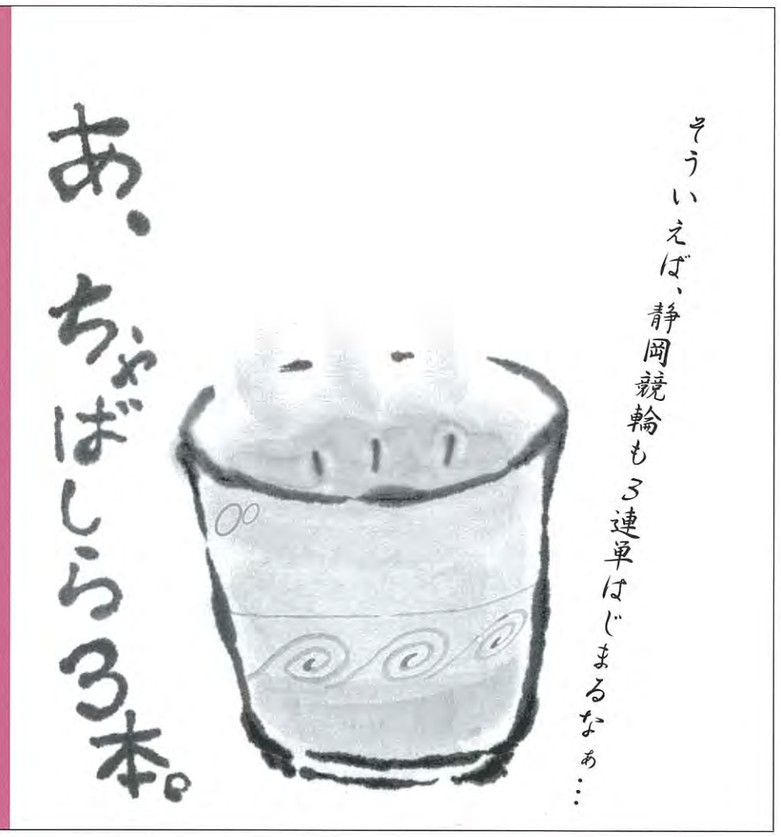
静岡市上土新田9
旧ふじ幼稚園
(東禅寺内)

静岡市瀬名五丁目11-29
雙葉学園同窓会館内
瀬名北教室

静岡市瀬名中央1-1-44
あゆみ第2保育園

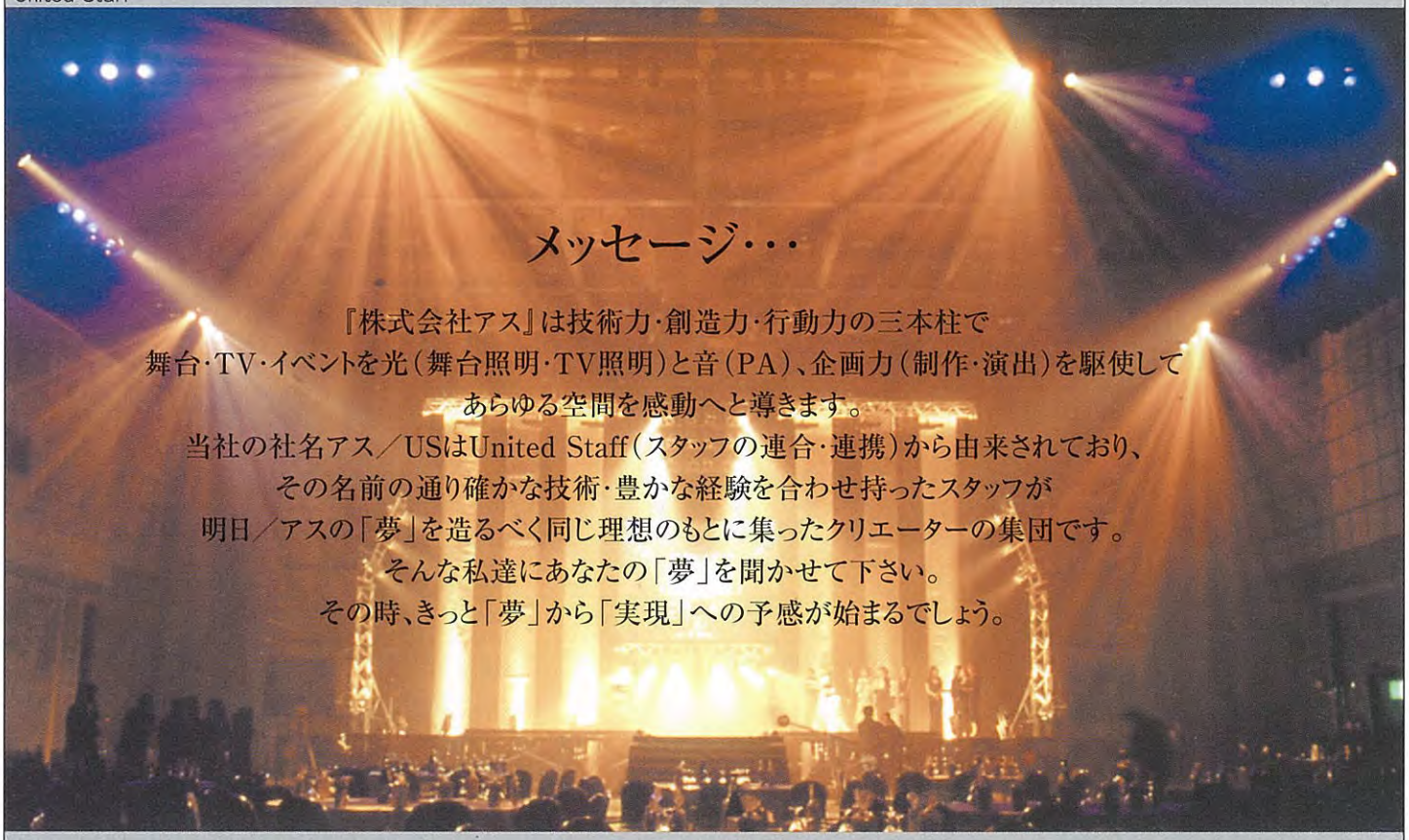
静岡市北1661-1
月影保育園

お問い合わせ・お申し込みは
音楽舎
ミュージッククラス
TEL.054(265)2930
FAX.054(265)2932



US
United Staff

照明・音響・催事制作　株式会社 アス



メッセージ・・・

『株式会社アス』は技術力・創造力・行動力の三本柱で
舞台・TV・イベントを光（舞台照明・TV照明）と音（PA）、企画力（制作・演出）を駆使して
あらゆる空間を感動へと導きます。
当社の社名アス／USはUnited Staff（スタッフの連合・連携）から由来されており、
その名前の通り確かな技術・豊かな経験を合わせ持ったスタッフが
明日／アスの「夢」を造るべく同じ理想のもとに集ったクリエーターの集団です。
そんな私達にあなたの「夢」を聞かせて下さい。
その時、きっと「夢」から「実現」への予感が始まるでしょう。

〒422-8043 静岡市中田本町59-2 TEL.054-287-4519 FAX.054-287-7896

おいでよ！ここはいつでも、健康な楽園!!

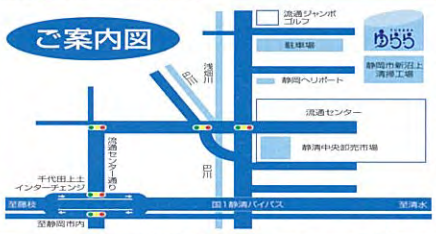
水中ウォーキングで健康促進

ゆ・ら・ら料金のご案内

全日使用券　大人1,200円　小人600円

夜間使用券	団体使用券	回数券	年間使用券	3月使用券
夕方6時からのお得な	15人以上のグループで	便利でお得な6枚綴り	1年間使いたい放題	3ヶ月間使いたい放題
大人 600円	大人 800円	大人 6,000円	大人 25,000円	大人 9,000円
小人 300円	小人 400円	小人 3,000円	60歳 18,000円	小人 4,500円
	※お一人様につき		小人 12,500円	

ご案内図



ふれあい健康増進館
YURARA ゆらら

P 350台
開館時間／10:00～22:00
（日祝のみ20:00まで）
休館日／毎週火曜日

お問い合せ先
〒420-0905 静岡市南沼上1379-1
TEL.054-263-3456

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています。